

都の空

発行所

都の空事務局

事務局

東京都台東区東上野1-24-4

丸千第二ビル2F

浅野修一事務所内

TEL 03-3835-2233

FAX 03-3832-7175

建立の趣旨

東京湾観音は地上五十六米。世界最高の仏像です。
建立者 宇佐美政衛が世界の平和を記念して、日本の表玄関東京湾と霊峰富士を一望するここ大坪山に
全世界の戦死戦災者の霊を慰めるために建立されました。ご本体は救世観音です。



私材を投じ直営工事にて、昭和三十二年着工し昭和三十六年九月開眼されました。
現代表は宇佐美芳衛氏（昭和三十年卒業）

東雲

政治活動には広報、通信、人件費などたくさん経費を要する。国民も支持者の一人として貧者の一灯を捧げる用意はあるが、政治家も庶民と同様にあるいはそれ以上に法令を遵守するという前提がなければならぬ。立法院に参画している政治家が法網を踏みにとじるとしたら、いったい誰に法令を遵守させようとしているのだろうか。金丸巨額脱税、蓄財事件は、納税者、国民に限りない政治不信を増幅させている。個人の事業者ですら青色申告を勧奨され日々の記帳と原始記録の保存を義務づけられ多くの納税者は誠実に納税の義務を果たしている。

政治家にも政治資金規制法による収支の報告義務があるが、これは底抜けのザル法である。記帳義務も原始記録の保存義務もなくそれこそドンブリ勘定そのものである。政治資金のオツリやヤミ献金は所得税上の雑所得に当たり（当会会員には釈迦に説法ではあるが）当然のことながら申告義務があり、無申告なら脱税で告発をうけるのはさらに当然のことである。遅滞きではあるが国税当局が政治資金を聖域化せず、突破口を開いたことは評価したい。



校長 坂倉敏夫

始めまして

このたび、本年四月一日付にて第十四代校長として着任いたしました。後藤安孝前校長同様よろしくお願いいたします。

都立第三商業高校への内示の知らせを受けたとき最初に浮かんだのが第五代校長清田栄一先生のお顔でした。先生は都高校教員試験には受かったが空きがなく途方にくれていた私を救っていただいた恩人です。その清田先生から「この度、私

の人生に縁故の深い都立第三校長に就任されたこと慶賀の至りに存じます。」「同校は商業教育の伝統を護持してはいますが、第十四代校長により一層、助長発展させて下さい。」という励ましのお手紙を頂戴し、嬉しさと同時に責任の大きさに身が引き締まる思いがいたしました。清田先生を顧問に推戴した三商会計人会が昨秋、第三商業高校における簿記会計分野の学科の学習

充実に参加することを目的に発足をし、その機関誌「都の空」の原稿を私が今、執筆している。この人生の機縁に不思議なものを感じております。そして、歴代の校長先生に直接ご指導をいただいた先生の多いのにも驚きました。ご縁のある学校だと思っております。さて、三商会計人会より本校会計科の簿記会計講座を担当していただくことが東京都教育委員会より正式に認可されました。

二十一世紀にはばたく生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に対応できる能力を育てることが大切であり、そのためにも生徒一人一人が生きていくと意欲的に学校生活を送ることができるよう学校は絶えず活性化を図り、指導体制を固めなければなりません。この市民講師制度は学校の活性化に大きな影響を与えるものと期待しております。そして、この試みが卒業生諸氏の母校愛の発露によるものが加味されたことにより創立以来六十五年にわたり脈々とつづく三商の伝統を受け継ぐ生徒達に卒業生諸氏の活躍振りがつたわることにもな

り、さらに意義あるものとなっております。校長室から運河を見つめている心が和みます。隅田川の流れてみて育った私にとって願ってもない環境です。希望は燃ゆる若きわは潤し若きわれらと校歌にもありますが、三商生徒がそれぞれに持つ良き素質を十分にのびし育てることが教職にある者の使命であることを常に自覚し、歴代校長先生の優れた業績を受け継ぎ全力をつくす所存ですので三商会計人会の皆様にも今後ともよろしくご指導ご支援お願いいたします。



教頭 篠塚良一

「会計科の市民講師登用について」

三商の「会計科」は簿記会計教育の一層の専門性を高めることで、生徒一人一人の個性・能力を伸ばし職業人としての意識を高めることを目指している。特に、簿記会計の上級の資格取得により、大学推薦入学の条件や税理士等の資格取得のステップになることを目標としている。生徒の具体的な目標は、二年生までに全商簿記検定、

一級以上の合格であるが、卒業時には日商簿記検定一級の合格をめざして指導している。この目標を達成するために、教師の意識と力量を高揚するため、研修の充実、指導者の育成に努めている。本校は、全国高等学校簿記コンクール東京都大会に出場し、二等入賞、前年に続いて全国大会に出場の成果をあげている。また、

一年「会計科」生徒の簿記合格(六日町三寮於いて)の実施、日商簿記検定の会場校を引き受け、各種簿記検定の合格者数の増加など、簿記教育への取組みの実績をあげている。今後、本校簿記教育が目標達成のために指導を一層充実し、専門性を深化するには、市民講師を招聘し、会計科の科目の一部領域に

ついてスペシャリストによる授業の発展が必要である。この度、三商会計人会が発足し、会則に、「本校の簿記会計分野の学科の学習充実に寄与することを目的とする。」があがっている。この目的に沿った市民講師(東京都特別非常勤講師)の登用は、本校簿記教育の発展のために、大いに役立つと考え、正式に申請しております。この市民講師の資格要件に最も合致した方として、三商会計人会から公認会計士の田村都彦氏を推薦いただきました。

田村都彦氏は知識・技能・経験を有し、教育に熱意あるスペシャリストとして、公式の市民講師として、適当と認められ許可されました。今後、特別非常勤講師として、本校簿記教育の目的達成にご尽力いただけるものと大いに期待し、お願い申し上げます。また、この度の市民講師の登用については、好川会長、宮川幹事はじめ会員各位のご協力・ご援助に厚くお礼申し上げます。

木綿沓

好川栄一 (昭和十二年卒)

昭和二十年十二月某日。新京(長春)の街は零下十数度に凍っていた。戦いに敗れた国、日本の居留民たちは、うらぶれた姿で、大同大街の閉鎖された旧日本機関のビルの前に立って物売りをしていた。

日本兵としてシベリアに流虜となるべきところを脱走して満人服(中国人服)に身を變(やつ)した私も、もう数十日そこ大同大街に立って僅かな糸、布、古着などを売ることによってその日の糧を得ていた。

粗末な戸板の上に並べられたそれらの品物の中の一つ頃からか、モーパッサンの短編小説集の英訳本が一冊まぎれこんでいた。三百ページぐらい、やや黄淡色の上質紙に印刷されたその短編集は赤い表紙に装幀されて、ちよつと重々しい風情があった。しかし、なにやら声高に叫び合せて通り過ぎる満人や白附(はいちゆう)の一升びんをラッパ飲みしながら歩く戦勝のソ連の兵隊にとつて、そんな

本は路傍の石ほどの値うちもなかったから、一向に見向きされることもなく、その本は静かに戸板の片隅におかれたままだった。

身を刺すような寒さの中で一日を立ち尽す私は、手足の凍傷を防ぐためにときどき激しく腕を振り、その場かけ足をするほかはやることがない。印刷物に飢えて、売れる物であるその本を読み、しゃれた言い回し、文法的に重要と思われるセンテンスを繰り返して読んで記憶することが、帰国してもう一度大学の入試に挑戦するつもりのこととつて、唯一の慰めであった。

身をかがめて売り物の整理をしていたとき突前「それ幾らですか」と声をかけられた。目を上げるとどつぷり肥った大人風の中国人が手を差し出してその本を渡せといジェスチャーを示しているではないか、にわかにその本への愛惜の気持ちにとり憑かれた私は、これは売り物ではないと口ごもりながら答えた。

上半身を反らしているその老人は私の答を聞くと、「そんなに筈はないでしょう」と上手な日本語で言った。毎日そこを通過して、戸板の上に並べてあるそのモーパッサンの短編集に目をとめていたのであって、当然売り物として並べられていた筈なのになぜ売らないのか」と少しきつい調子で畳みかけてきた。

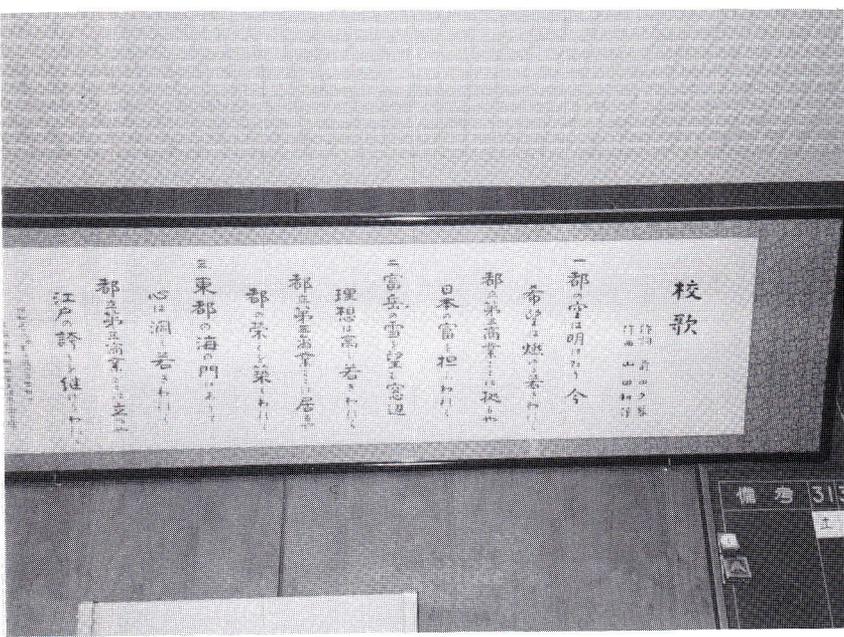
「そりゃ、ならべてはあったが」と言つたまゝ返事に窮した若い私は、売る訳にいかないのだという心の中をうまく説明できず、ぶつさら棒に売り物ではない旨を繰り返すばかりだった。

食べることもできないだろうにそれでも売らないのか、とその人は調子を和らげて尋ねた。「そうです」若者は昂然と胸を張って応じた。金縁の眼鏡を片手ではずして、見すばらしい身なりの私をじつと見据えた中国人は、あなたはまだ若い、しっかり勉強しなさい」という意味のことを言うと、くると向こうを向いてすたすたと足

早に去つていった。うれしかった。丈の長い中国服の裾がひるがえり、質素な木綿沓の先端が気品高く、つんとがっていた。私は自分の心を上手に説明できず外国の人に不快を与えたのではないかと悔やんだ。

あの老人は若い日本人の屈折した心の中を理解してくれただろう。か。いや、理解してくれたのだ、と私は自問自答するのである。

中国は私の心の中で最も近い国である。





市民講師任用決まる # 気鋭の田村会員が担当

宮川隆一 (昭和十八年卒)

東京都教育庁では、平成三年度より都立高等学校の教育内容をより魅力あらしめ優秀な生徒が多数集まるようにする方策として正規教員では、対応しにくい領域に学外の社会性豊かにして実務に精通したスペシャリストを市民講師として登用し特色ある授業の展開を期するとの構想を固めかつ実施体制に入った。即ち市民講師の登用制度の開始である。

そこで、三商會計人会は会則第二条に東京都立第三商業高等学校における簿記会計分野の学科の学習充実に寄与することを目的とするに掲げていることからしても母校への市民講師を会員中より最適材を選び派遣すべきであるとの結論を持ち、すでに白羽の矢を昭和三十六年卒業の田村都彦会員にあてていたことは全会員のご高承のとおりである。このほど、田村都彦会員が東京都教育委員会より特別非常勤講師として正式に任用され母校、東京都立第三商業高等学校に勤務を命ぜられたが、この間の経緯を次のとおり記すこととする。

平成四年六月母校篠塚良一教頭先生より三商會計人会会員中より市民講師たり得る適材を推薦して欲しいとの要請があったので数名の幹部において鳩首、模索を開始したところ昭和三十六年卒業の片山寛会員から同期の田村都彦会員が最適材であると考えたとの申出でを頂いた。早速、幹部三名が田村会員とお会いして講師就任について意向打診したところ極めて明快に快諾を得た次第である。このことに基づき七月七日の世話人会、十月五日の創立総会に諮りそれぞれ議決、承認を得たので学校当局にこの旨を伝え東京都教育庁東京都教育委員会への手続き、取運びをお願いした。学校当局は所要の諸書類を取まとめ平成五年三月三十日付けで東京都教育委員会に対し田村都彦を公立学校市民講師に任命され東京都立第三商業高等学校に勤務を命ぜられた旨申請を行った。この結果平成五年四月一日を以って東京都教育委員会より田村都彦に当該職務につき任用する旨の発令通知書及び特別非常勤講師許可書の交付を受け、この授与式が四月二十七日、母校校長室で篠塚良一教頭、黒葛原正展教諭、田村都彦特別非常勤講師好川栄一会長、石田五郎副会長、宮川隆一幹事、浅野修一幹事、荻野弘康幹事の参集のもとに厳粛に挙行された。発令通知、特別非常勤講師許可証の内容を見ると一担当教科として商業科の一部領域である原価計算及び会計実務、内容として原価計算の目的及びその計算手続きと会計実務と記載されている。

なお、田村市民講師の事務所、住所、履歴等は次のとおりである。
事務所〒 文京区本郷二〇十九 富士ビル 九
監査法人簿衣佐吉事務所
○三〇三八一六〇一四五
住所〒 江東区清澄二〇九〇五
履歴
昭和三十六年 都立三商卒業
昭和四十一年 明大商学部卒業
昭和四十二年 簿衣事務所入所
現在に至る



市民講師の許可証の授与を記念して(九三〇四二七)
後列左から 篠塚教頭、荻野幹事、宮川幹事、黒葛原教諭
前列左から 好川会長、田村会員、石田副会長



4教人検第273号

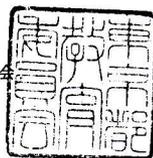
特別非常勤講師許可証

東京都教育委員会 殿

平成5年3月30日付で申請のあった特別非常勤講師の任命については、下記の条件を付して許可する。

平成5年3月31日

東京都教育委員会



記

- 1 特別非常勤講師として許可する者
氏名 田村 都彦
住所 東京都江東区清澄2-9-5
- 2 所属学校名及び所在地
所属学校名 都立 第三商業高等学校
所在地 東京都江東区越中島3-3-1
- 3 担当教科の一部領域名及びその内容
担当教科の一部領域名 商業のうち会計、原価計算及び会計実務
内容 原価計算の目的及びその計算手続と会計実務



三商「会計科」について
東京都立第三商業高等学校

教諭 黒葛原正展
(会計担当)

会計科を開設しまして、丸二年がたち、第一期生は、三年生となりました。社会の変化生徒の多様化に適應し、商業教育の専門性を深めるために設置し、幅広い会計人の育成を目標としております。設置までに、二年半を費し、平成三年度に開設してからも、指導法等について、常に研修を行い、立派な会計人、社会人として巣立ってくれるよう指導にも力が入ります。特に、「簿記会計」の授業を通して、人間としての生き方、在り方等も指導し、単なる簿記会計の実務屋に終わらないよう教育しています。

指導の内容は、「簿記」七単位、「会計」四単位、「工業簿記」三単位、「税務会計」三単位、「課題研究」三単位が、簿記会計に関する科目である。特に、簿記、会計、課題研究は、平成六年度実施の新学期指導要領を先取りしての指導である。

「課題研究」については、一部日商の範囲も指導している。また実践については、経理実践を行っている。

特色ある指導内容として、一年生の二学期末に行っている簿記合宿、第二学年で学ぶ「会計」、そして、第三学年の「課題研究」で理解度別授業等があり、生徒に会計科の生徒であることの自覚と、個々応じた指導を行うことにより一人一人の力を養成している。しかしながら、多様化した生徒の入学により、今以上に、きめ細かい指導も必要となってきた。 「三商会計人会」より、市民講師として、会計科の生徒に原価計算、会計実務についてご指導をいただけることになり、非常に感謝しております。机上の学問だけでなく、実務に携わっている方から生きた学問を学び、身につけられることはすばらしいことであり、私も、望むところです。今後とも「三商会計人会」のご支援を期待しております。

杉原勇太郎先生急逝

……悲報に動転……声も出ず……



椎名義明

平成五年三月十日午後七時三十分杉原勇太郎先生が急性呼吸不全で逝去された。あまりにも唐突な悲報に動転して暫くは声もでなかつた。何と悲しい知らせだろうか。享年七十二才であった。たまたま三月二十七日(土)に年一度の全商協会珠算検定委員会のOB会を開くことになっており、真柴義雄先生と私が幹事だったので、案内状の返事は真柴先生へ、そして、私には二月末にわざわざ電話で出席の旨連絡があった。大へん元気な声で、このところ体調が良く毎日一時間余り散歩しており、好きな酒がおいしく飲めると話されていたので、この時点では何等平常と変わることなく元気だと思つて、再開を約束して電話を切つた。今にして思えばこれが先生との最後の会話となつてしまい残念でならない。まことに痛恨極まりないこ

の事実には只声もなく涙するものがある。さて、先生との出会いは戦前、戦後を通じて知りあつていたが、何といつても昭和二十六年六月十五日付で都立三商に転任して以来、定年退職した昭和五十五年三月までの約二十九年間にわたつて職場を共にしたことである。公務のこと、教科のこと、実務検定のこと、高校全国大会のことなど、いろいろと私の至らぬ点をカバーし適切な指示をいただくなどお世話になつたことを衷心より感謝する次第である。

ちの先生は三商の「勇ちゃん」と呼ばれ卒業生諸君から親しまれ、三商の生き字引のような方で生来の温厚篤実な性格で円満な人柄であつた。そして学問での中心的指導の立場を常に持たれ生徒の信望も厚かつた。

ときに、私が転任と決まつた頃は、新たに珠算実務検定試験委員会が創設され、実施に踏み切るまでに要したご苦労は大へんなもので、創設委員として杉原先生は大いに活躍されたのである。幾多の苦難を克服してすでに第二回の検定が成功裡におえたときであつた。いま思えば海のものとも山のものとも分らない、まさに四面楚歌の発足であつたといえるが、検定発足して六年目の三十一年秋には二十万の万台を突破したのである。まことに先見の明があつたと高く評価されていた。

思うに、先生は昭和十三年四月以来同五十六年三月に至るまで三商に勤務され、しかも周知のごとく三商六期の卒業生なので、戦争中の招集期間二年を除くとただ一筋同一校に在職し四十三年間の長きにわたつてゐる。江戸っ子育

珠算科も時の流れと共に、名称が変わつてすなわち「珠算および商業計算」次は「計算実務」そして「計算事務」と科目名が変わつた。そのつど文部省の学習指導要領の作成委員として杉原先生は参加し、文部省に貢献されたのである。以上のように学校業務以外の仕事を含め多忙を極めていたが、先生は外見は細身でしゃやな身つきであつたが大へん健康で、定年退職まで一度も入院、あるいは病氣欠勤したことはほとんどなかつたと記憶している。三商退職後は引きつづき日黒学園女子高校に

奉職六〇年恩師を悼む

浅野修一 (昭和二十九年卒)

杉原勇太郎先生は、三商の六期生で、三商には昭和八年四月入学、昭和十三年四月から昭和五十六年三月に定年退職となるまで勤務しました。その後も引き続き、三商同窓会及び財団法人三商会の役員をされており、先生の人生七十二年のうち六十年近くは三商人生であつたと言えます。

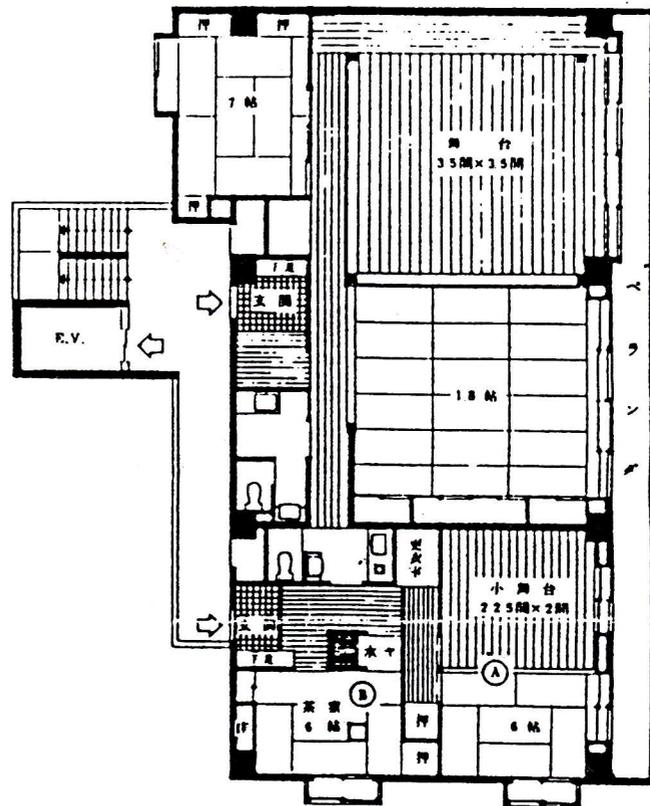
私たちが会員にとつて、先生は、後輩又は先輩で、また恩師であります。此度、交友四十二年に及ぶ

椎名義明先生に追悼の記を書いて頂きました。
付記
故杉原勇太郎先生の奥様のご住所等を記すと次のとおりであります
〒227 横浜市緑区市ケ尾
一〇七七六
杉原 三枝子
〇四五一九七二二〇〇八

江戸情緒あふれ隅田川を眼下に見おろす

神谷舞台

「神谷舞台」は、能楽，日本舞踊，邦楽，落語，お茶会などの発表会，おさらい会，勉強会，お稽古場しとして最適です。



神谷武志 (第8期生)

〒111 東京都台東区駒形2-2-10

ファイインライフ駒形10階

電話 03 (3841) 6029

舞台専用 03 (3843) 7680

視察と短歌の洋行記

(グローバル思考への
チェンジを痛感す)

石田五郎 (昭和十一年卒)

平成四年は正月にオーストラリア、九月にカナダとアメリカへ旅をした。

一、オーストラリア

シドニーとゴールドコーストへ行く。南半球は初めてで、時差は一時間だが、季節は真夏になり、平均温度二七度、北風が吹き込むと四〇度位に上昇する。ユーカリの樹林が山火事となることがあるという。

灼熱の 北風吹けば 樹林燃ゆるが立つ大地は 南半球

街を走る自動車は過半数が日本車、ホテルのテレビ、冷蔵庫、ポットまで全部日本製品で、日本企業の看板が目立つ、どこへ行っても日本語が通じ、観光地には日本語の案内書がおかれており、一寸興覚め。

現在、日本人の新婚旅行のトップはオーストラリアで、羊毛、海産物を大量に輸入している。コアラにも対面した。オーストラリアのシンボルは、世界三大美港の第一

一と言われるシドニー港である。

夕映の シドニー港は白鳥の翔び立つ姿 オペラハウスは

二、カナダ

九月二〇日、ロスからカルガリへ空路三時間余、途中山火事を数ヶ所も遠望する。カナダもオーストラリアも山火事は消火しないで自然鎮火を待つのみらしい。

ついで、レイクルイーズからバンフへ行く、カナディアンロッキーは氷河を抱き、エメラルド色の湖、新緑の森林、急流と滝等変化に富んだスケールの大きい自然に恵まれている。

○シャトーレイクルイーズ

お伽話に出てくるようなホテルで、一九二四年に建てられたもの、エドワード調のインテリアが優雅であった。

レイクルイーズはエメラルド色の神秘的湖でカナディアンロッキーがハイライトである。○バンフ・スプリングホテル スコットランドの古城を思わ

せる豪華なホテルでバンフの象徴と言われる建物。ボウ川の対岸から見ると山々を背景にしたこのホテルの全景は素晴らしい。

紅葉と 緑の森に かこまれし湖水にうつるロッキーの雪山

三、アメリカ

カナダ中部で気温は五度、ロスへ戻ると三〇度の夏になる。

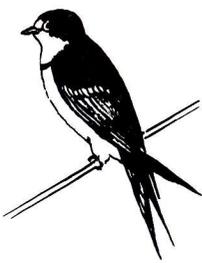
アメリカの景観はどこでもスケールが大きく活性に満ちている。人の気質も明朗快活勤勉であり、好感が持てるのだが、数回も行っている、初めてのカナダやオーストラリアと違って、欠点も眼立つようになってくる。

最近の日本経済力の優劣が種々の歪みを生んでいる。以前ニューヨークの以外の街では殆ど見られなかったホームレスが、今回はロスとその郊外、シスコでも数多く見受けられるようになった。国務省の発表の失業率は七・一パーセント、民間調査では一〇パーセントを超えたとさえいわれている。

私の最も驚いたのは、ロスのダウンタウンのビルの半分以上が日本人の所有物で、アメリカ人の所有建物は僅か六パーセントに過ぎないことだった。かりに日本でこのような減少があったならば我々はどう思うだろうか。

日本人は「優秀な商品を割安で売る」ことは相手のためであり、良い行為であると信じているのだが、そのため工場が閉鎖され、日本の百貨店が郊外に進出すると、アメリカの小売店が数十軒倒産するであろう。

ダウンタウンと観光地に、フォアセール、レンタルの貼り札が目立つ、三千万人の極貧者、人種問題、財政と貿易の双子の赤字等、



病める大国アメリカのかかえる問題は多い。若きクリントン新大統領に期待することにした。

輝ける 超高ビルの 底辺に 佇む若者 エイズのゼツケン

ミュージカルは 理解し難も われなれど

キャッツの悲歌

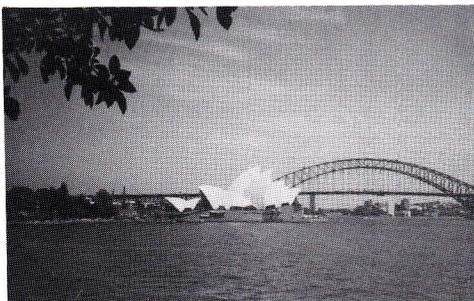
何故か胸うつ

アーリントンの

無名戦士の墓碑に

靖国の戦友は 供花たえず

いかに見るらむ



人間ドック浮気の勧め

帆足 誠 (昭和十七年卒)

それは今から六年半前の昭和六十一年十一月末のある朝、手にした新聞に目を通すと、当事副総理であった、かの金権貯蓄の金丸信大先生が、胃のポリープ摘出であった。その四日後に腸のポリープ検査を控えていた私にとっては大変興味のある記事であると同時に、金丸さんのポリープ発見の端緒は？と憶測にしばし時を費やした。

で心臓・胃はもとより殆んど臓器の精密検査を受ける羽目となり、その結果思いもよらず、腸にポリープのあることが分った。発生個所、発見時期等夫々宜敷きを得て今日迄約十年、毎年一回検査、摘出を繰り返しており、特に大事に至らずにすんでいる。

検査、適出に際しては、腸を綺麗にする必要上、二、三日は食事制限に気を使い、当日は完全空腹状態にする。断食も亦立派な健康法の一つと言われているので、節制に努め、医者にとって最良の状態で臨む様に心懸けている。一件落着後に飲む酒、珍味に思を馳せながら！(これ負け惜しみ)

心臓病治療で、長らく新宿の榊原記念病院に入院していた義弟を見舞っていた或る日、偶然に同病で「人間ドック」を実施していることを知り、予て心臓に懸念を持っていた私は、それ迄十数年世話になっていた新宿は住友三角ビル内にあるW病院でのドック検査を、心臓病の権威として高名な榊原病院へ切り換えたのが昭和五十八年春のことだった。

従前の検査が、いささかマンネリ化していたことに鑑み、榊原病院での検査に際しては、日常の体調の不調を大袈裟に訴えた。お陰

省みれば、それ迄の「人間ドック」とは、私にとって何だったのかと反省せすにおられない。四十も半ば過ぎ、同年の友人達もドックを利用し始めたこと耳にする様になり、然らば私もとドック入りしたのが、そもその始まり。身体に特に異常もないことから、家内

ドック入りしたに過ぎなかった。その間の成果は、当初胃潰瘍の痕跡を発見して貰った他は、ドック入り前一日だけ、お義理で、飲食に留意した程度で、病院側のカルテも上記「胃潰瘍の痕跡あり」の他は、特に異常なしで終始した。たまさかN病院から、榊原病院への「浮気」を機に、ドックに対する心構えを消極的対応から積極的へと一変し、精密検査による時間的ロス、事前準備の煩しさに目をつぶり、自覚症状のない「WEAK POINT」の洗い出しに精を出すようにしているこの節である。お陰で近年「胃のポリープ」も発見、早期適出することが出来た。

お知らせ

会員各位殿

総会日程決まる

謹啓 会員の皆様にはますますお元気で活躍のことと存じます。

三商會計人会は、昨年十月五日設立され会員一五〇名に達する組織となりました。

これも、ひとえに皆様のご支援の賜と心より御礼申し上げます。

母校会計科の市民講師には気鋭の田村都彦会員が決定し、また、機関誌「都の空」第二号もお届けすることが出来ました。

規約の定めるところにより、ご報告を兼ね下記の日程により第一回の定期総会、懇親会を開催することとなりました。

同封の総会案内をご覧の上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

敬具

日時 六月十八日 十六・〇〇より

場所 上野のぼすの池 東天紅

お誘い合せの上、多数ご参加ください。

平成五年五月吉日

三商會計人会

会長 好川栄一

アコーディオンと私

高木 菊次郎 (昭和十四年卒)

私は、三商時代からアコーディオンを楽しんで弾いていた。当時(昭和十年代)は、ボタン式の押し異音で手風琴と呼ばれていたものを使っていた。今のハーモニカと原理は同じでドのボタンを押すとドで弾くとレであった。ハーモニカが吹ければ手風琴も弾けたのであった。現在のピアノ式アコーディオンは当時は高価で子供には手が出なかった。私が小遣いや、お年玉を貯めて買った手風琴はセミクロマチック手風琴で半音が四箇所ついていた。

当時、住んでいた赤坂の福吉町から自転車通りで神田駿河台の「すゞらん通り」の楽器店に買いに行ったものである。私は学校から帰って来ると毎日、手風琴を弾いていた。夏になると家の前の縁台で涼みながら弾いたこともあった。近所の人々にもさぞ迷惑を掛けたことであつたであらう。

当時、三商では第一学期が終了して夏休みに入る直前に悠々と

云うのがあつて大講堂で各クラス毎に演奏を行つて競り合った。私が二年か三年の時に、クラスを代表して級友の野上君と二人でアコーディオン演奏をした。曲は「ドナウ河の漣」であつた。今想えば随分厚かましいことでクラスの人達も、よく認めてくれたものであつた。

昭和十年代の流行歌は「東京ラブンディー」「青い背広で」など藤山一郎の歌で今でも時々歌われる良い曲が多かつた。私は、これらアコーディオンで弾いていた。さて、三商時代の思い出は、この様なことであつたが戦後復員して大日本印刷に勤めたが昭和三十年代に研究所の古関君がピアノアコーディオンを持っていて、もう弾かないと云つたので譲つて貰つた。この楽器はヤマハ製の四十八ベースのものであつた。待望のピアノアコーディオンが手に入つたのでキイは、すべて押し同音で勝手がまるで違つていたので、初歩

から独習書でやり直してあつた。楽譜も従来の数字からオタマジャクシの本格的になつたので譜の読み方から勉強しなければならなかつた。独習書で規則的にやっていると段々、飽きてしまつて、あとは自己流で、やさしい曲を弾き始めた。しかしピアノアコーディオンの良さを充分出す程には至らなかつた。

転勤で大阪に居た頃には社宅の仲間とクリスマスパーティーや忘年会を開いた時にアコーディオンを持ち出すと営業部の一本君がピアノを習つた事があると云うのでアコーディオンを弾いてくれて皆で歌つたりして楽しんだことが懐かしい。

会社に入つて直ぐに生命保険に入つたが三十年も、またたく間に過ぎ満期の金を貰つた。昭和二十年代の三十万円の保険金は昭和五十年代では大した額ではないので何時の間にか無くなつてしまふ思われたので記念に残る様にとピアノアコーディオンの本格的なものを買うことにした。神田駿河台の明大前の谷口楽器店はアコーディオンの専門店であつたので、ここでイタリー製のエキセルシアアコーディオン一〇〇ベースを買つた。これならプロも使える程度のものであつた。重量も十キロもあり、これを抱えて演奏すると相当な疲労となる。新しいアコーディオンを手にして暇を見ては練習した。しかしなかなか思う様に弾けなかつた。たゞ、アコーディオンの本格的な軽快な音色の魅力は何とも云えないので下手ながらも、自らを慰めるために弾いていた。

音楽とは文字から云つて音を築しむと理解される。子供の時に、生の音楽を聞いて感動すると音楽が好きになるのである。私は小学校(港区の氷川小学校)の時代に音楽教室が完備されていてレコードで管弦楽を聞かせれ先生から今の音はオーボエだとかヴィオラだとか解説されたが一向に興味があつた。しかし手風琴の生の音を聞いて、そのリードを振動させて出る音に惚れ込んでしまつた。

最近は何を取つて十キロのアコーディオンを抱えるのが苦勞となるので弾かなくなつたが、テレビのコマーシャルでアコーディオン

の音が聞えると、はつとして胸が踊る。特にパリーの風景が出るによくアコーディオンの曲が流れる。NHKの、のど自慢の伴奏でも、アコーディオンは姿を消して、キーボードになつてしまつた。キーボードではアコーディオンに似た音が出ているがアクセントが無く平板の音色でメリハリが無い。アコーディオンは蛇腹の操作でアクセントが出て独特の味わいを出せるのが特色である。

ヨーロッパでは、今でもアコーディオンが愛用されていると聞く日本でも、もう一度アコーディオンが若者に注目されるよう願うものである。



白色申告者の推計課税事件である
三商同期のI君はK税務署長から所得税の更正処分を受けたが、その内容が何としても納得できないのでこれに対して国税不服審判までしたが、結局は税務署長の更正処分がそのまま維持されI君の主張は全く認めてもらえなかった。右更正処分を取消すよう訴訟を提起してくれないかと私は依頼を受けた。I君は都内の下町で飲食店(和食とそば類)を個人で経営し、かたわらたばこか煙草、具も販売している小規模な店舗で従業員は家族と妻の弟夫婦達である。店舗所在地は一ばん近い私鉄の駅から約二キロメートル離れており、店舗の前面の道路は都道で自動車の通行量が多いが歩行者はあまりなく、近隣は住宅、小工場倉庫とかが混在している商店は少ない。飲食店としては適地とは言えない。飲食店として適地とはいえない。顧客に通りがかりのフリーの客は先ずない。I君は青色申告者ではなく店舗地所在の或る会に加入しており、税務署員が税務調査に来店するとその会の者達が強勢押しかけて署員に質問を浴びせたり、その他いろいろと妨害して税務調査をさせないという方法を繰り返したため、K税務署長はこれ以上の調査は不可能と判

断して更正処分にふみ切ったという経緯があった。
推計課税の適否が争点
税務署がI君の所得を計算するにあたっては、I君の米の仕入先においてI君の米の仕入高を調査し、更に日本たばこ産業株式会社においてI君のたばこの仕入高を調査し、それらに比率同業社数人の資料から計算した一定比率を乗じて所得額を計算する、いわゆる推計による課税計算の方法を採ったことは申すまでもない。そして三年分の所得税と過少申告加算税の賦課決定をしてきたものである。推計課税については適法かどうかについて学説が分かれているが、判例としては合理性ありということが適法であるとの考え方が確立しているといえる。しかし無条件で認めているわけではなく、納税者が資料提供に協力的でないとか、税務調査を妨害するとか等の事情があり、推計課税以外に方法がない場合には、はじめに適法であるといふことと理解されているのではないだろうか。訴訟を提起することにしたが、税務署の推計課税の主張を覆すには、実際の売上高・仕入高・必要経費等を裏付ける資料が必要だが、I君には継続して取引を記載した帳簿・伝票類がなく断片的にしか分らないこと、しかも証拠書類が散逸していること等の困難が積み重なり、気の重い訴訟となった。

事例紹介

平成元年四月にK税務署長を被告として東京地方裁判所へ提訴
三年分の所得税更正処分と過少申告加算税賦課決定処分を全部取消すよう求めた。税務訴訟においては、先ず被告である課税庁が更正処分額の計算根拠を主張立証することが必要だが、推計の根拠となった比率同業者が具体的に何処の誰であるかが分からないその推計の合理性の判断が出来ないのでそれを明示するよう被告に求めたが、公務員の守秘義務を盾にして頭として応じてくれなかった。被告が推計課税に合理性ありと主張したのに対し、私は次のとおり反論した。「原告の米の仕入数量に比準同業者の米の仕入数量一キロ当たりの平均収入金額を乗じて収入金額を算出し、その金額を平均売上原価率を乗じて必要経費を算出し、右収入金額から各必要経費を控除して原告の所得金額を算出しており、比準同業者の選定については抽出基準を設けその基準にすべて該当する者を抽出しているが、被告の主張においてはA・B・C等の記号を付しているだけであって、何処の誰だかは全く不明であり、ために右推計の合理性を争うことは原告にとって著

或る税務訴訟に学ぶ

弁護士 高野清
公認会計士
(昭和二十三年卒)

い場合には、はじめに適法であるといふことと理解されているのではないだろうか。訴訟を提起することにしたが、税務署の推計課税の主張を覆すには、実際の売上高・仕入高・必要経費等を裏付ける資料が必要だが、I君には継続して取引を記載した帳簿・伝票類がなく断片的にしか分らないこと、しかも証拠書類が散逸していること等の困難が積み重なり、気の重い訴訟となった。

当方の反論を認めるに至った。口頭弁論を八回行ない、九回目に当方申請の証人(I君の妻の弟でI君の経理担当者)尋問が行われ、いよいよ結審間近になったとき、裁判長より和解勧告がなされた。原告・被告いずれが勝訴しても更に第二審・第三審と訴訟を繰り返す事案だがそれともいかがと思われたので、I君と熟慮協議した結果、和解勧告を受け入れ、裁判官三名を仲介役として原告・被告双方で判決案を協議し、形式の上では当方の訴取下げ、実質上は和解ということで一挙に解決した。
青色申告、税理士関与で適正申告へ
訴訟係属中に、I君は青色申告の承認を受け、青色申告会に加入して同会から税理士を紹介されてその指導を受けながら日々の取引を整理記帳するようになった。今までのI君の大福帳的な記帳では今後の経営には不適當である旨の私の進言を、I君が快く受け入れてくれた結果である。
I君にとつてはもちろん、私にとつてもいろいろと勉強になった訴訟であった。国の機関を相手にしてもらうことがいかに難しいかを実感した事件でもあった。

四季折々の旬の味をまごころこめてお届けする、ふじなおの懐石弁当・出張料理

磨き抜かれた季節の味をお届けします。

豊かな味の出会いを創造するクリエイティブなケータリングサービス
各種ご宴会、ご会合、出張パーティからご法要料理まで、ご予算お好みに合わせて、
きめ細かく迅速にお応えいたします。

お料理は、ふじなおグループの長年にわたる味づくりの「経験と実績」をいかした本格料理ばかり。
お料理のお届けはもちろん、企画から配膳サービス、後かたづけまでのサービス一切承ります。

●年中無休●和食・洋食●都内全域から一部郊外までお届けいたします。
各種社内記念行い、会議、謝恩会、通夜料理、告別式、法要会食一など。

●年中無休●和食・洋食●都内全域から一部郊外までお届けいたします。
各種社内記念行事、会議、謝恩会、通夜料理、告別式・法要会食一など。

ふじなお クリエイティブ・ケータリング部
TEL(03)3432-1731 FAX(03)3436-1454

藤直商事株式会社 代表取締役 藤村直司〔第一期生〕

〒105 東京都港区芝公園3丁目5番8号 (東京タワー前機械振興会館内) 本部 TEL(03)3434-2270 FAX (03)3435-0637

創業明治初年

塩干・珍味卸

魚河岸 小川久
(株) 寿屋商店

お中元・御歳暮・御贈答・その他

全国発送御ん承ります。

(営業品目)

しらす干・ちりめん・小女子 各種
焼のり・昆布・海藻・魚卵
珍味・ひもの・加工品・その他

第五代目店主 小川博敏 (九期生)

〒104 東京都中央区築地4丁目13番6号

TEL 03(3542)8981・FAX 03(3542)6996

連句に遊ぶ

中川

哲 (昭和十四年卒)

一時はこの世から消えてしまっ
たと思われていた連句(正式には
俳諧の連歌)が復興している。
私の師匠東明雅先生の朝日カル
チャーセンター「連句教室」は、
ときに椅子取りゲームが行われ
るほどの盛況だと聞いている。

そうはいっても三百万人とか五
百万人とか言われる俳句人口とは
比べようもない数だが、最近ほド
イツ人やアメリカ人で関心を持
つ人もじわじわは増えているらしい。

教養高い、まして蕉風俳諧の祖
松尾芭蕉先生のお膝元で育った三
商會計人会の皆さんには「釈迦に
説法」だろうとは思いますが、「レ
ンクつてなんのことですか」と、ク
ライアントや同業仲間にかかれる
ことも多いので、紹介がたら「一
緒に遊びませんか?」とお誘いし
てみたい。

ただ、たいへん毒気が強いので
この魅力にひきこまれると、限り
なく時間を潰して悔いなくなる危
険がある。おカネはないけれど、
時間はたっぷりあるというヒトに

は向くけれども、「忙しい忙しい」
を連発する「働き蜂の戦後金持ち
日本人」には向かないかもしれな
い。

私のように、カネもないがヒマ
もない「遊び好き」がこの魔力に
とりつかれると、マゾヒスティッ
クな恍惚感に身を落とすからご用
心を、とご注意申しあげておく。
なにがそんなに面白いのか。

フィクションの世界に遊べるから
である。一人の作業ではなく、小
集団の合同創作だからである。論
理の糸をつなげるのではなく、世
界(あらゆる現象)を鳥瞰するから
でもであるうか。いまヤタラと
感性の時代などと言われるが、日
本人は昔から「感性」で世のなか
を生きてきた。TQCだのKJ法
だのは江戸時代の庶民もやってい
たことだから、現代の会社人間に
もたやすく採り入れられたのだら
う。

感性をもっとも触発させる現象
といえは、季節の変化と「恋」で
ある。連句を遊ぶキーワードはこ
こにある。

発句「最初の五七五の句一だけ
が独立して明治の終り頃から「俳
句」と呼ばれたらしいが、これだ
けは、その場その時の季節を盛り
こんだ「写生」でオープンングと
なる。脇といわれるつぎの七七の
句は別の人が発句を補ってひとつ
の世界にまとめる。短歌を二人で
作ると言っても良いのかもしれない。
三句目からはどんどんフィク
ションの世界に遊んでいく。全体
のなかにしかるべく四季が読みこ
まれ、山場は恋の句で、参加して
いる連中(連衆といわれる)がワ
イワイガヤガヤ盛りあがってはし
やぐところである。

北村透谷が「恋愛は人生の秘録
(鍵)なり」と言ったそうだが、
古今東西、恋に心を燃やさない人
間はいないだろう。

大昔は百韻といつて五七五を五
十句、七七を五十句、交互に連ね
て百句で一巻としたが、江戸時代
に入って三十六句の一巻(「歌仙」
と呼ぶ)が一般的となってきたけ

れども、私たち明雅門下では、二
時間前後で楽しもうとするときは
「二十韻」の一巻をまとめる。
まア下手な例題だが、ひとつお
目にかけてよう。

二十韻「藤房や」 中川哲捌
藤房やゆらりと揺れる雨のなか
声をごぼせる巢隠れの鳥 冬乃
雛の間に母似の吾子の塾睡して
コーヒーをいれミルクたっぷり
都庁舎にかかりし月を仰ぎつつ
色なき風に拾いたる恋 シズ
あの人も私も羊が好きでした 弘子
猫ががりがり柱ひっかく 隆秀
黄昏はそら恐ろしき空屋敷 冬乃
ヨットに飽きてハングライダー 弘子
乾杯のビールジョッキになみなみ
と シズ

生臭坊主経い加減 隆秀
自衛隊機雷の数が気にかかり 冬乃
泣いて別れて写真抱きしめ 哲
ウイドウと騙しすり寄る冬の月 冬乃
赤の広場にいつか薄雪 冬乃
糖尿を一病として息災に 弘子

金釘流の便り届きぬ 隆秀
花筵それぞれ開く手弁当 シズ
田螺も脚を伸ばす昼過ぎ 冬乃
(亀戸天神藤祭当日首尾)

一句一句の面白さよりも、切れ
ているようでつながっている「転
がり方」を楽しんでいます。参加
者は、この二十句のどこにどの季
節が盛りこまれているか、恋の句
はどれでどういう趣向か、現代世
相を読む時事の句や滑稽句がどの
へんにばらまかれていているか、など
クイズのつもりで遊んでみてくれ
ませんか。

なおこの連衆にいる隆秀とは三
商の同期生で、連句では私の先輩
にあたる福井隆秀氏。二十一期の
松田義夫氏も連句のお友だちにな
っています。

一杯やりながら、男女入りまじ
って「それはまずいよ」とか「も
っと濃厚な恋を詠んでよ」などと
心のもつれあう楽しさはまた格別
です。

因みに「捌き」とは全体のコン
だくた「みたいな役柄で、昔は宗
匠といわれる先生の役目だったよ
うですが、明雅門ではみんなに順
ぐり廻ってきて、鍛えられます。



簿記棒のことなど思う

……簿記道は、左極楽、右地獄……

佐々木 萬 晋
(昭和十五年卒)

今では、バーコードをなぞるだけで自動仕訳が行われ、パソコンのキイを二つ三つたたけば、試算表はおろか総勘定元帳までが印刷されて出てくる世の中になった。十五世紀のルカ・パチオリもあの世でさぞ苦笑していることであろう。

彼を持ち出すまでもあるまい。黒い背広の襟を軽くつかみ、歌うような独特の節廻しで、「簿記道は、左道楽、右地獄」と、少年の頃、清田栄一先生から簿記の基本をたたき込まれた我々にとっても全く夢のような進歩である。「簿記棒」をころがし、赤インクで指先を汚しながら、仕訳帳何枚、総勘定元帳何枚と、宿題の野線引きに悪戦苦闘したことなどは夢のまた夢か。

※ 簿記一棒【簿記棒】
帳簿に線を引くのに用いる棒。鉛の芯を入れた円い棒で適当な位置にころがして用いる。(広辞苑)

僕は戦後間もなく(三商卒業後七、八年経っていたらうか、)木材関連産業の小さな会社へ経理係として入社した。そしてそこで初めて、簿記の練習問題ではない本物の会計簿記というものを見た。それは、背表紙に金文字で帳簿名の入った、何冊かの黒いクロス装のものである。どの頁にも端正な筆跡で、摘要欄には漢字、金額欄には数字がびっしりと記入してあり、しかも月末残高の辺り、寸分違わない位置には、前任者である経理課長の確認印が朱肉の色も鮮やかに押されているではないか。見るからにそれは、「適法かつ正確」といった感じであり「簿記」という存在そのものであった。

得意科目を活かし税理士へ

在学当時簿記は好きな学科のひとつではあったが、その後全然違った世界を歩き、長いブランクの後で、果たしてこの仕事ができるだろうか、「ううむ、こいつはいけねえ」。いかにいい加減な僕も思わず心の中で唸った。出勤初日はなんとかお茶を濁した帰途、早々に同じ三商出身の親友を尋ね、相談かたがた、焼け残った太田哲三先生の簿記の参考書を借り出した。(そう言えば、三商の時もよくやったな)。

会計慣行として相当程度採用されていたのではなかったらうか。その上「現金出納帳」がどうもおかしい。通常の現金取引に混って次のような記帳が随所にある。

(現金出納帳)

勘定科目	摘要	入金	出金	残高
売上高	〇〇商店へ売掛	10,000		
売掛金	同上		10,000	123,456
仕入高	××会社より掛売		8,000	
買掛金	同上	8,000		123,456
売掛金	〇〇商店より入金	10,000		
売上値引	同上精算値引		500	132,956

これが「収支簿記」という立派に認知された簿記の手法であり、「現金出納帳」が「仕訳日記帳を兼ねている」ということを教え

れたのは、後日税理士試験の勉強を始めた頃、これも太田哲三先生の著書によってであり、なんとなく理解はしたものの、当時はどうにも不思議でならなかった。

警察官への借方貸方の説明で四苦八苦

この会社へ勤め始めてまだ日の浅い頃、金融機関への贈賄容疑で社長が警察へ身柄を拘束され、会計帳簿も押収という事件が起こった。(幸い後に無罪となった)。入社以前の問題で、まるで関知しないことではあったが、経理担当者ということで、僕も参考人として早速に出頭を求められた。始めて行く警察は勿論あまり気持ちのよい所ではなく、何と無い圧迫感がある。おまけに刑事さん達はことが金融問題だけに、総勘定元帳の「借方」と「貸方」の意味に並々ならぬ関心を示し、先ずその説明を求められて四苦八苦することになった。まさか「簿記道は、左極楽、右地獄」とやる訳にも行かず、こちらが「地獄」の思いをしたことであった。

これも後日、太田先生の「会計学」によって、(擬人法)という勘定学説を教えられ、成る程と思

不動産鑑定評価と企業会計の接点

(特に土地勘定科目における評価について)

不動産鑑定士 島 田 誠之助 (昭和十二年卒)

不動産鑑定評価は土地にかんしては、価格時点における最有効使用を前提として経済価値を判断して鑑定評価額を決定するのであるが然しながら企業会計においては、土地に関しては取得原価主義を一貫して貫いているのである、従って土地の暴騰前に企業が買いいれた場合においては、決算期において土地の含み資産は極めて大となり、これに反して企業が土地の暴騰時代に購入した場合には、決算期における資産の含み損を内包することになるのである土地の含み益を莫大に持つところの企業は、危機存亡の時には、これを売却して危機を乗り切れることは出来るのであるが、これに反して土地の含み損を多く持つところの企業は、危機存亡の時は、いかんともすることは出来ず債権者を害すること

は、甚だ著しいと断言せざるを得ない次第である。前者たる土地の膨大な含み益を持つところの、例えば王子製紙のとき企業は隠された莫大な資産をもつことになり株主や債権者にとつて極めて有利であることは他言を必要としないのであるが貸借対照表真実の原則に違反していることは、明白であるし且脱税的要素を含んでいることにもなるであろう。又後者の場合においては、貸借対照表真実原則則違反するは、勿論、株主や債権者を許害することと相成るであろう。元来企業会計においては原価主義かまたは、時価主義かは多年にわたり相争われたところであるが、しかしながら、今日企業の規模が拡大し外国資本が導入され企業の国際化が激しい時代においては、我々は少なくとも下記の様に企業会計として処理すべきではなからうかと考えるのであるが會計の専門家の意見をいただければ幸甚である。

左記の処理
一 決算期日を価格時点として会社責任において断行すること。
二 土地の含み益については、再評価積立金を設定し資本に漸次振り替えること
三 含み損については取得原価主義を訂正して、債権者、株主保護を徹底すること。
追記 会社設立の際の現物出資については不動産に關して不動産鑑定士の鑑定評価書を必要とする法的規制がなされているのであるから決算期に關して土地に關する限りにおいては何等かの措置は資産の透明化のため必要ではないかと考える。



現在の経済体制が債権債務の最後の決済手段として土地本位を維持している限り今後その必要性は益益大となると考えている。

←
うことになる。つまり、各勘定科目の背後には、その科目の責任者が存在するということが、例えば、「現金勘定」の後には出納責任者の某さんがいて、「借方」に記入された金額は、某さんがいわば会社から「借りた」金、つまり責任をおわされた金銭だということ。貸方金額は、支払領収書などによって明らかにされた会社への返済額、責任を解除された金銭を示すということ。などだが、当時の刑事さん達にはこの説明を以てしても、理解は難しかったろう。

天才的なルカ・パチオリの複式簿記

しかし、今更何と言われるかも知れないが、商取引を二つの側面に分解して把握し、バランス・チェックを行いながら、B/SとP/Lを作つてゆくという、ルカ・パチオリの「複式簿記」の手法は、やはり天才的で、卓抜な発想だと思ふし、また、その後五、六世紀の間、様々な経済の変遷にも耐えて、変わることはないその原理の堅牢さには、もつと驚いていいのではなからうか。

さてこの会社が出発で僕は「會計」という職業に入った訳だが、

当時は一時的な身過ぎ世過ぎとしか考えておらず、まさかこの道が現在の税理士業につながつて行くとは、夢にも思わなかつた。

その頃は丁度公認會計士法が制定され、「企業會計原則」が公表された時期で(昭和二十三、四年か)、少し遅れて税理士法も制定されたのだと思ふ。

その頃の、黒沢清先生等による新しい會計倫理の展開は、追い追いつこの道に興味を持ち始めた僕にとって、不思議な魅力に満ちたものであつた。例えば、「固定資産は、長い将来に渡る費用の前払と同じで、いわば「用役の束」である」という説などは、いまでこそ当たり前かも知れないが、新鮮そのもので、それこれ眼からウロコが落ちる思いがしたものであつた。

いずれにしろ、三商で、「會計實務」の基本である「簿記」をたたくき込まれたこと、また知識を学ぶ喜びを教えられたことが、現在の、職業會計人としての僕を養っている大きな土台であることは間違いない。

指に染みし赤き
インクや浅き春

明正堂書店

中通り本店
3831-0191

でんでんビル店
3836-0381

広小路店
3831-4568

丸井上野店
3836-5046

アファブ店
3832-7873

秋葉原店
3257-0758

丸井上野店
雑誌・書籍
文具・カラーコピー

丸井

中通り本店
専門・学参・文具・
地図・カラーコピー

でんでんビル店
ベストセラー
宝石関連書

広小路店
ビデオ・ファミコン

JR御徒町

NTT

ABAB7F店
コミック

木村和男 (第10期生)

浅草駅前店 5月24日 オープン

★編集後記★

都の空第二号が発刊された。当初は原稿が集まらないのではないかと思っていたが杞憂であった。論壇あり、随筆あり、文壇ありで嬉しい増ページとなってしまった。まさに英才、文士雲の如しである。学校関係では坂倉新任校長にご挨拶いただきましたが、前任の後藤校長にも大変お世話になりました。

待望の市民講師には、気鋭の田村都彦会員が登用されることとなった。実務経験を活かした活躍が期待される。

杉原勇太郎先生のご逝去は実に悲しい。哀悼のお気持ちは、椎名先生、浅野修一会員に寄せていただいた。心からご冥福をお祈り申し上げます。

末筆ですが、賛助広告をいただいた同窓のオーナー各位様には厚く御礼申し上げます。

(幹事 荻野弘康)

「原稿募集」

第三号は本年九月発行予定です。事例紹介、論壇、文壇、随筆、合格体験記なんでも結構です。事務局宛としどしお寄せください。

三商会計人会事務局

東京都台東区東上野1丁目24番4号

丸千第二ビル2階 浅野修一事務所内

電話 03 (3835) 2233 番 (代表)

TEL 03 (3832) 7175 番

郵便局振込口座

東京 6-565938

三商会計人会